

地域活動のご紹介

元気!にぎにぎサークルとタブレットのつどいを
取材しました



大日向地域集会所にて行っている「元気!にぎにぎサークル」「タブレットのつどい」におじゃましました。身体を動かして体力や筋力を維持し、タブレットで脳ピカを目指します!
毎月第2水曜日と第2、4金曜日の10時から開催されています。
町内の方はぜひご参加ください。

《認知症サポーター養成講座》



講座は90分となります。町内会で、サークルで、ご近所の仲良しグループなどで、ご希望の日程で調整いたしますので、受講希望の方は、西部地区地域包括支援センターまでご連絡ください。
また、以前受講したけどもう一度聞いてみたいという方も、遠慮なくお申し込みください。

《昔語りの会》

11月12日(水) 13:00~15:00 「紅葉ドライブ」
12月17日(水) 14:00~15:00 「クリスマスビンゴ大会」



～認知症について知ろう～

新しい認知症観について

「新しい認知症観」とは、「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、**住み慣れた地域**で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という考え方の事です。「新しい認知症観」は、2024年1月に施行された「認知症基本法」に示されています。

認知症の人が自分らしく暮らすためには、**周囲の人の支えや理解**が大切になります。

詳しく知りたい方は「**認知症サポーター養成講座**」を受講してみてください。

※認知症サポーター養成講座の詳細は表面に記載しています。



キャラバンメイト(社会福祉士) 佐藤帆乃佳

みんなの福祉コーナー

～アルコール依存の息子からの暴力・共依存～



78歳のAさんは、36歳の長男と2人暮らしです。遺族年金があり生活には困っていません。長男は、大学卒業後就職した会社を3か月で辞めてから14年引きこもりがちな生活です。ここ数年アルコールを多量飲酒し、注意するAさんに暴力をふるうようになりました。

行政職員や地域包括支援センターが高齢者虐待として保護、分離による安全確保を提案しましたがAさんは、「家を出たくない」「長男は何もできないから心配」と、自宅に戻ってしまいます。

高齢者虐待や、家庭内暴力では、本人と家族が「共依存」(*)のような関係にあり、虐待を受けている人を保護しようとしても、本人が拒否したり、保護しても自ら家族のもとに戻ってしまうことがあります。

本人に判断能力があり、自らの意思で自宅に帰ると言っている場合、本人の意思に反して支援者が強制的に介入するのは難しいことです。

このような場合は、本人に対して別居の説得とともに、暴力を振るわれたときに、本人が助けを求められる避難場所を複数用意しておくことも必要です。



※共依存…特定の相手との依存しすぎる状態。親子の場合、自分を犠牲にしてまで相手に尽くしたり、相手の問題を自分のことのように抱え込んでしまう状態を示します。

※バックナンバーをご希望の方は西部包括支援センターまでご連絡ください。

社会福祉士 伊藤 信子